

笠ヶ岳・抜戸岳東尾根

苦しい蟻地獄のようなラッセルが延々と続いた。こんなハズではなかったと思った。今までやって来た冬山経験なんか、全く役に立たなかった。

ここは北アルプス・笠ヶ岳抜戸岳東尾根。99年冬山合宿。仲間6名でやって来た。今回は富士宮・あさぎり山の会2名参加の合同パーティー。

たった50m上るのに1時間掛かった。ダブル歩荷もやった。(トップは荷物を置いて、空身でラッセルし、一定の距離上ったら、下って荷物を背負い上げる)だから、山は分からない。だから、山は面白い。だから、山は難しい。だから、山は奥が深い。だから、いつまでも探求するのだろうか……。

荷物は最大限軽量化でSTと私=22kg、SI=19kg、O=19kg、K=19kg、T=16kg。但しこの重量は、ピッケル・アイゼン・防寒具・ワカンを除いた重量。ひと口に冬山といっても千差万別。奥秩父・ハッ・中央・北・南では、全て顔が違う。

同じ北アでも入山者が多い人気ルートはラッセルの心配はまずない。私は今まで北アの冬山は、槍2回(中崎・北鎌尾根)、奥穂(涸沢岳東尾根～奥穂)、常念・鹿島槍(爺ヶ岳東尾根～鹿島)・白馬(楯池から往復)・五竜・唐松に上って来た。しかし、これらの山はいずれも沢山の登山者がいる。従って余程のことがない限り何時間もラッセルすることはない。

笠ヶ岳は、標高2898m。標高差1798m。3000mに少し欠けるが、北ア主稜線から外れ、独特の山容は、神秘的なオーラを発している。また、冬は登路が東面に限られ、猛烈な季節風下、東面の不安定で危険なキノコ雪に対処しなければならない。雪崩が多い山としても名高く事故が絶えない。

笠ヶ岳は興味深い山だが、隣の穂高に比べ玄人好みの山ゆえ、登山者は少ない。我々が会ったのは、2パーティー8名のみ。しかも、それは下山時だった。ようするに、今回我々は、どのパーティーにも先駆けてラッセルに終始した。

結果は、2165mで「敗退・撤退」。上り6時間掛かり、下りは50分だった。

年末年始に入る冬山として、久しぶりに「未登」に終わった。これが我々の「実力」。戦略・パーティー・軽量化など、改善の余地はあった。また、今回は初めて他会との合同登山だった。それなりに楽しく成果はあった。今後は増えるかもしれない。帰路、もう上った時の苦しみは忘れ、「来年もう一度やろう」と盛り上がった。

